



県高校総体男子サッカーで青森山田の25連覇を阻止し、初優勝した野辺地西イレブン＝2日、八戸市のプライフーズスタジアム（野辺地西高提供）

山田高県内連勝418で止まる 野辺西 悲願の初V

県高校総体サッカー

県高校総体男子サッカーは2日、八戸市のプライフーズスタジアムで決勝を行い、野辺地西がPK戦の末、25連覇を狙った青森山田を破り、初優勝を飾った。本県高校サッカー史を塗り替えた野辺地西の選手、関係者は歓喜に沸いた。1999年の敗戦以降続いていた青森山田の県内公式戦の連勝は418で途絶えた。

7人目までもつれたPK戦。青森山田が外して迎えた野辺地西のキッカーDF中野渡琉希（3年）がゴール左隅に沈めると選手たちは抱き合い、喜びを爆発させた。青森山田1強時代に風穴が開いた瞬間だった。「実感がない。びびることなく全力でぶつかった」。主将のFW藤田律（同）は興奮を隠せなかった。前半7分に右クロスをMF阿部亮太（同）が頭で合

わせて先制。後半に追いつかれたが、集中力を切らすことなく延長、PKにもつれた死闘をものにした。

両校は高校選手権も含めて何度も県大会決勝で激突。そのたびに王者の壁にはね返された。それだけに就任22年目の三上晃監督（49）は「決勝で負けた先輩たちの経験が生きている。あらゆる力がプラスに働いた」と強調した。野辺地西OBで昨年度の総体、選手権とも県大会決勝で敗れた悔しさを知る東北社会人リーグ1部・ブランドュー弘前FCのDF奈良良祐（18）は「打倒青森山田」の思いで野辺地西に入学した当時を振り返りながら、「頑張ったこのような結果を残してくれた後輩や監督、コーチに感謝したい」と述べた。

スタンドには選手の恩師も駆けつけた。阿部を小学生時代に指導した野辺地サッカークラブの川畑翔監督（40）は「歴史を変えた選手たちの中に、自分のクラブの子がいてうれしい」と喜びをかみしめた。地元では町内放送が流れ、優勝の1報が住民に届けられた。

全国大会では青森山田を破ったチームとして注目を浴びることは必至。阿部は「山田に勝った責任がある。インターハイ（全国総体）でいい試合をしたい」。7月26日から福島県で開かれる全国の舞台で野西旋風を巻き起す。（本紙取材班）